

令和4年度第3回

登別市教育委員会会議録

日 時 令和4年6月30日（木）午後4時30分

場 所 登別市民会館 小会議室

第3回 教育委員会議事日程

1 日 時 令和4年6月30日（木）午後4時30分

2 場 所 登別市民会館 小会議室

3 議 案

報告第1号 令和4年第2回市議会定例会一般質問について

報告第2号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について

報告第3号 教職員人事の内申に係る臨時代理の報告について

議案第5号 令和3年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識
経験者の活用及び選任について

4 情報提供

(1) 公立高等学校配置計画案（令和5～7年度）について

(2) 国立アイヌ民族博物館特別展について

5 出席者

(教育委員会5名)

教育長	武田 博	委員	赤井 秀輝
委員	堅田 裕	委員	上村 正人
委員	木村 雅美		

(事務局12名)

教育部長	堀井 貴之	教育部参与	中島 英治
教育部次長	舘下 貴子	総務グループ総括主幹	近間 聡史
建築主幹	南雲 宏明	学校教育グループ総括主幹	西川原 邦彦
学務主幹	中井 英和	学校給食センター長	高橋 努
社会教育グループ総括主幹	古村 健	文化・文化財主幹	菅野 修広
図書館長	綿貫 亨	総務グループ主査	蓬田 匡俊

武田教育長：ただいまの出席委員は5名であります。定足数に達しておりますので、令和4年度第3回教育委員会を開会いたします。

本日の議事については、報告3件、議案1件となっております。

最初に、報告第1号「令和4年第2回市議会定例会一般質問について」を議題とします。

事務局からの説明をお願いします。

館下次長：報告第1号「令和4年第2回登別市議会定例会一般質問について」ご説明いたします。

今回の一般質問は、11名の議員から質問があり、6月13日から4日間の日程で行われました。

そのうち、教育関係は2名の議員から質問がありましたので、その概要についてご報告します。

議案書2ページ、宮武祥子議員からは、「スポーツ振興施策について」として、昨年開催された「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」を契機として、それらの関連事業を生かした今後の本市のスポーツ振興等について質問がありました。

まず、平成28年度から開始した「2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業」では、4名のオリンピックを招聘し、競技体験の講演や子どもたちへの直接指導をしていただき、本市のスポーツ振興に大きな効果があったこと。

今後のスポーツ振興については、トップアスリートとのふれあいや、指導の場の提供に努め、地域スポーツの活性に努めていくこと。

あらゆる世代の運動・スポーツ実施率の向上に向けた取組については、若いうちからスポーツに親しむことは、健康や生きがいがいづくりにつながり、スポーツがもつ多様な魅力をより多くの市民の皆さんに実感していただくことが大切であること。

様々なスポーツを経験する機会の創出については、スポーツをするだけでなく、見る、支える、知るといった関わり方を含めて、市内におけるニーズの高まりに応じた支援のあり方を検討すると答弁しました。

これら答弁に対し、今後の具体的な取組について再質問があり、これまでコロナ禍において中止してきた大規模スポーツイベント等については、関係団体と協議し取り組んでいくこと。

また、新たなスポーツとして、スケートボードができる施設整備の考えについて、既存施設の中での実証実験に向けて、関係部署と協議したいと答弁しました。

そのほか「地域活性化に向けた外部人材の活用について」、地域おこし協力隊や地域活性化起業人制度を活用し、スポーツ振興につなげるべきとの質問があり、他

自治体の活用事例等を参考に、関係部署と協議・検討していく旨、答弁しております。

4 ページからの足立知也議員の質問は「多様な性を受け入れる環境づくりについて」をテーマに、本市のLGBTQ、いわゆる性的マイノリティに対する考えや取組について質問がありました。

そのうち、教育に関する部分につきましては、まず、小学校では人権教室などで、人によって性自認や性的指向に違いがあることを学び、中学校では、道徳の授業等で他者理解や多様な価値観の存在などについて学ぶ機会を設けているほか、学校独自での取組や、「鬼っ子フォーラム」「ピンクシャツデー」などについて答弁しました。

教職員へのLGBTQの理解促進に向けての取組については、国や道教委からの通知を踏まえ、各学校において事例研修やスクールカウンセラーの助言を受け、きめ細やかな対応ができるよう努めていること。

LGBTQに悩む児童生徒や、それが要因のいじめ・不登校の実態については、現在のところ相談等はないものの、日ごろから児童生徒が相談しやすい関係づくりや、教職員がアンテナを高くし様子を捉えるよう努めていること。

あだ名禁止（さん付け）については、全国的に導入が増えているものの、なぜ（さん付け）にするのかという理由や社会的背景を児童生徒一人ひとりが理解を深めたうえで議論することから始めるべきであること。

ジェンダーレス制服導入の考えについては、現在のところ見直しに向けた検討などを行っている中学校はないが、生徒自らが主体的に制服のあり方を考え、その検討結果を尊重することが大切であり、単に学校からの押しつけにならないよう配慮すべきであること。

多様性を認め合う社会づくりを目指すうえで、発達段階である児童生徒へのLGBTQに対する理解は重要であり、その促進において、学校教育の果たす役割は大きいと認識し、理解促進に努めていくと答弁しました。

これら答弁に対し、LGBTQに悩む児童生徒がいた場合の相談窓口に対する再質問があり、道教委が所管する「子ども相談支援センター」等で対応が可能となっており、毎年、児童生徒に「相談窓口紹介カード」配布しているものの、性や心の悩みを相談できず、不安を抱えて過ごすことがないように、通信等を通じて広く周知していくことを答弁しました。

その他、登壇答弁ではありませんが、伊藤健太議員より「大雪等による雪害に順応していくまちづくりについて」との質問の中で、2月の大雪の際に、下校時にバスの運休が知らされず、生徒がバス停で待たされた事案について、教育委員会からバス事業者に対し、運休時には速やかに当該学校に対し情報提供するよう依頼した旨、答弁しました。

また、工藤俱二雄議員より「まちづくりを担う人づくりについて」をテーマに、人づくりには郷土愛を深めることが必要との質問に対し、小学校では社会科副読本や温泉入浴体験などにより、ふるさと登別に興味を持ち、登別を好きになるためのきっかけとなっている旨、答弁しました。

以上です。

武田教育長：ただいま、報告第1号について、説明がありました。ご質疑ございましたか。

（「ありません」の声あり。）

武田教育長：これをもって質疑を終わります。報告第1号については、終了します。次に、報告第2号「登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について」を議題とします。

事務局からの説明をお願いします。

近間総務グループ総括主幹：報告第2号「市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について」、説明させていただきます。

議案書6ページをご覧ください。市議会定例会提出議案、令和4年度登別市学校給食事業特別会計補正予算（第1号）に関する意見について、議案書7ページのとおり臨時代理を行いましたので報告を行い、承認を求めるものであります。

議案書8ページから16ページが補正予算書となっております。議案書10ページのとおり、歳入歳出予算にそれぞれ9,055千円を追加いたしまして、その総額をそれぞれ348,255千円とするものであります。内容といたしましては、物価高騰により食材料費の上昇が見込まれることから、議案書16ページのとおり、賄材料費の増額を行うものであります。

なお、本来、賄材料費は給食費で賄うことを原則としますが、今回の予算計上にあたっては、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、給食費への転嫁を行わず、保護者負担の軽減を図るよう予算措置を行っており、議案書15ページのとおり、歳出予算に係る特定財源として、同交付金を同額予算計上しております。

当該補正予算に関する意見について、臨時代理を行いましたので、承認をお願いいたします。

武田教育長：ただいま、報告第2号について、説明がありました。ご質疑ございましたか。

(「ありません」の声あり。)

武田教育長：これをもって質疑を終わります。この件について、承認することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

武田教育長：異議ないものと認めます。したがって、報告第2号について、承認されました。

次に、報告第3号「教職員人事の内申に係る臨時代理について」を議題とします。事務局からの説明をお願いします。

西川原学校教育グループ総括主幹：報告第3号は「教職員人事の内申に係る臨時代理について」であります。議案17ページをお開きください。

北海道教育委員会より令和4年7月1日付け教職員人事の内申について、速やかな提出を求められたことから、18ページの臨時代理書のとおり、令和4年6月20日付けで登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則第3条第1項の規定に基づき臨時に代理しましたので、同条第2項の規定により報告し、承認を求めるものであります。

今回の異動につきましては、既に本日の新聞報道等にもございましたが、19ページの「令和4年7月1日付け人事異動発令内示書」のとおりであり、登別市立幌別中学校教頭の永堀善之（ながほりよしゆき）氏が室蘭市立本室蘭中学校長に、室蘭市立桜蘭中学校教頭の永瀧幸治（ながたきこうじ）氏が登別市立幌別中学校教頭にそれぞれ異動となっております。

以上、報告し、承認をお願いいたします。

武田教育長：ただいま、報告第3号について、説明がありました。ご質疑ございませんか。

(「ありません」の声あり。)

武田教育長：これをもって質疑を終わります。この件について、承認することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

武田教育長：異議ないものと認めます。したがって、報告第3号について、承認されました。

次に、議案第5号「令和3年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識経験者の活用及び選任について」を議題とします。

事務局からの説明をお願いします

中島参与：議案第5号は「令和3年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識経験者の活用及び選任について」です。議案書の20ページをご覧ください。

本議案は、「令和3年度教育委員会点検・評価報告書」の作成に当たり、学識経験者の活用及び選任について審議をお願いするものであります。

平成21年度から作成をはじめ、令和3年度で13年目を迎えております。

予算に関わる事務事業評価とともに、教育委員の活動状況及び教育行政執行方針の推進状況について、教育に関する学識経験を有する方の知見を活用しながら、教育委員会が自らの視点で点検・評価する報告書となっております。

学識経験者であります。前年度に引き続き、日本工学院北海道専門学校副校長の引地政延（ひきちまさのぶ）氏、前登別市郷土資料館館長の吉野幸広氏、登別市退職校長会会長の大屋敷俊裕氏をお願いをしたいと考えております。

大屋敷氏は、加藤清之氏にかわり今年度から登別市退職校長会の会長となられております。

以上、3名の方を学識経験者として承認いただきますよう、よろしく申し上げます。

武田教育長：ただいま、議案第5号について、説明がありました。ご質疑ございませんか。

（「ありません」の声あり。）

武田教育長：これをもって質疑を終わります。この件について、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

武田教育長：異議ないものと認めます。したがって、議案第5号について、原案のとおり決しました。

以上で本日の議事は全て終了しました。

次に、事務局から情報提供をお願いします。

中島参与：（１）「公立高等学校配置計画案（令和５～７年度）について」情報提供いたします。資料をご覧ください。

北海道教育委員会は６月７日、令和５～７年度の公立高等学校配置計画案を発表しました。

１ページ目は、道内の通学区域別に見た中学校卒業生数の推計表になりますが、登別市は胆振西学区に含まれております。

道教委では通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、例年、この時期に適正配置の計画案を発表しています。

２ページ目には、胆振西学区における中卒者数の推移と各学校の学級数、今後の見通しが記載されています。

道教委の推計によりますと、令和７年度の中卒予定者数は１，２２４人で、令和４年度から１６７人減少します。

令和５年度からは、室蘭栄高校の普通科が６学級から５学級へ、１学級減で募集をすることがすでに決定していますが、今回、令和７年度から、室蘭工業高校が１学級削減されることが発表されました。

これは、学区全体の中卒者数減少に加えて、欠員率の高さが理由の一つと思われます。

対象学科は未定で学科再編も含めて検討する予定です。

また、伊達高校と伊達緑丘高校の統合校である伊達開来高校は、今年度６学級で募集したところ、欠員が多く５学級で運営しているため、再度６学級で募集するかは、正式決定時に発表されます。

なお、資料はありませんが、令和５年度の募集から室蘭養護学校の普通科を３学級から２学級へ１減する方針も示されています。

このあと、道教委は学区ごとに地域別検討協議会を開いて計画案を説明し、９月上旬に正式決定される予定です。

武田教育長：本件について、ご質問等はございませんか。

中学校卒業生の間口に併せながら調整していくこととなっております、今回新たに、室蘭工業高校を１学級減という話でありました。

その後も、令和１１年ぐらいまでの数字は出しているところです。

それでは、本件については、終了とさせていただきます。

事務局から他にございませんか。

菅野社会教育グループ文化・文化財主幹：（２）「国立アイヌ民族博物館における知里真志保に関する特別展の開催について」の情報提供になります。

資料は当日配布の別添のちらしになります。

6月25日より白老町にある国立アイヌ民族博物館にて、登別市出身のアイヌ語学者である知里真志保さんをテーマにした特別展が開催されております。

登別市郷土資料館、登別アイヌ協会、銀のしずく記念館から貸出ししている資料も多く、本市出身の偉人の生涯をご覧いただくことができます。

会期は8月21日までとなっておりますので、ぜひこの機会にご覧いただければと思います。

なお、事務局にて見学する機会を企画しております。

教育委員会終了後、委員の皆様へ日程のご相談をさせていただきますので、よろしくお祈いします。

武田教育長：それでは、すべての情報提供案件について、終了いたしました。委員の皆様からごさいませんか。

堅田委員：新型コロナも落ち着いてきたところですが、フッ化物洗口の再開は、どういった目処になっていきますか。

西川原学校教育グループ総括主幹：資料は用意していませんが、フッ化物洗口自体は、すでに進めているという認識でありましたが。

堅田委員：昨日、登別小学校と話をしたときに、洗口用のカップがないということで、その手配が始まっていないという話でした。

基本的には、全校再開しているということによろしいですか。

西川原学校教育グループ総括主幹：再開はしているという認識で良かったのですが、たまたま用意が出来ていなかったのかどうか、早急に確認して、調整させていただきます。

堅田委員：もう一点よろしいですか。例えば、中止はなんとなく広がったら中止かなと思うのですが、再開する基準というものはあるのでしょうか。

西川原学校教育グループ総括主幹：明確な基準というのは設けてはいませんが、学校によっては、学年ごとでも感染状況が違ったりというのがあるので、養護の先

生と私どもの担当とで協議しながらとなりますが、明確な基準は設けておりませんので、その学校の状況を踏まえて判断させていただいております。

堅田委員：ということは、各学校と個別判断ということになりますか。よっぽど市内で感染が広がらない限りは。

西川原学校教育グループ総括主幹：そうですね。基本的には、フッ化物洗口を進めて実施していくこととなります。

堅田委員：わかりました。

武田教育長：感染の対応によって、学級閉鎖や学年閉鎖という状況を踏まえて、お願いしている状況になります。

赤井委員：先々週ぐらいの新聞で、室蘭市の不登校の21年度の人数が133名だから、すごく増えたという報道があって、コロナ関連という中に入ったのですが、登別市の状況としては、顕著なものはあるのでしょうか。

中島参与：本市では、それほど出現率というものが、小中で増えてはおりません。

100人あたりの人数で言いますと、中学校が0.88人、室蘭市がたしか8人というふうに出ていましたので、ちょっと衝撃的な数字だったのですが、全国や全道の平均が5人ぐらいなので、本市では低く抑えられているなという話であります。ただし、若干、年度にはよりますが、少し増加した傾向が見られる程度であります。

武田教育長：なければ、これで情報提供を終わらせていただきます。それでは、すべての案件が終了いたしました。

最後に7月の教育委員会の開催日について予定したいと思いますが、次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

近間総務グループ総括主幹：定例の教育委員会につきましては、毎月最終木曜日開催しておりますので、7月については、7月28日木曜日16時30分からと考えております。

武田教育長：事務局より提案のありました7月28日木曜日16時30分で皆様のご都合はいかがでしょうか。

(「大丈夫です」との声あり)

武田教育長：では、決定とさせていただきます。詳細につきましては、後日事務局よりお知らせ願います。

以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。